2022年1月31日

JCE7プロジェクト実施要領説明資料（福井誠）

1．JCE７プロジェクト実施要領

1）JCE7プロジェクトの考え方

（1）JCE７のプロジェクトは、宣教の具体的分野における宣教協力を実際的、継続的、地域的に進めることを目的とする。

（2）また、JEAをつなぎ目として、宣教効果を高めるための、教団／教派間や地域におけるネットワークを築き、宣教協力のインフラを生み出し、整え、強めることを目指すものとする。

（3）これまでは、JCEの委員会側が、ある程度人を選んで依頼することが慣例であったが、本来自発的、主体的にプロジェクトが起こることが望ましいので、その仕組みを作成し、立ち上げをサポートする（信徒の参加を巻き込むためには、信徒からのプロジェクト提案も出てくることが期待される）。

（4）その目的を達成するため、公募性とし、またシードマネーを提供する。

（5）ただし、JCE７の宣言文草案が2022年9月には提出される予定なので、その草案に沿った応募案件を採択する他、応募されなかったものの、草案に沿った目的遂行のために必要と思われるものについては、プログラム局内で検討し、適当な担当者への協力の打診と立ち上げをサポートする。

2．JCE7プロジェクト採択の基準

プロジェクトについては、原則、以下の要件を満たすものとする

（1）関連性：JCE７のテーマ「おわりからはじめる宣教協力」の趣旨説明文の内容に具体的に沿っており、JEA加盟の教団教派および教会の具体的な課題解決に益する内容であること。一個人、一団体の活動、またその利益に関するものでないこと。また一個人の意見の表明ではなく、プロジェクトとして主体的自立的に行われるもの。

（2）具体性：専門家のみにわかるような内容ではなく、一般信徒にも明確で具体的な内容であること。

（3）実現性：希望や願望ではなく、計画があり、現実的な内容であること。実際に、プロジェクトチーム担当者に、そのプロジェクトを進めるエフォート（取り組み時間30％以上）が確保されていること。

（4）測定性：出版や公的プラットフォーム（WEB）の構築、モデル提示など、誰にも評価しうる成果物があること。

（5）期限性：明確な期間（3年以内、継続可能）を持って終了するものであること。同じテーマでの発展性があるものについては、セカンドフェイズまで可能とする。

3．予算と会計報告

1）プロジェクトは、原則JCE７の会計からの活動費（初回10万円）をシードマネーとして活動を実施する。

2）事前に書式に従った明細を提示する。予算として認められるのは、活動のための交通費、会議費、翻訳費用、外注工賃とする。

3）各プロジェクトの会計報告は、毎年、当該プロジェクト管理組織（宣教フォーラム部門を想定）に提出する

4．プロジェクト管理

1）プロジェクト管理組織は、プロジェクトの開始、終了、報告、公示、全体予算の管理、メンバーの変更などについて、JCE７プログラム局の機能を引き継ぐ。

2）プロジェクト管理組織は、プロジェクトの進捗報告会を兼ねた毎年の宣教フォーラムを企画実施、またプロジェクトの必要な修正を行う。

3) なお、宣教フォーラムは、毎年異なる地域において開催し、その地域における宣教協力の働きとつながり、宣教協力のネットワークを生み出す目的を併せ持つ。

5．プロジェクト公募の実施要領

1）JCE７のプロジェクトの決定について

（1）プロジェクトの公募をJCE7ニュースを通じて実施する。

（2）プログラム局にて、上記の採択基準に沿って、プロジェクト審査を実施する。

（3）プロジェクト公募期間：2022年8月～2022年10月

内定通知：2023年4月

　　決定プロジェクトの発表と開始：2023年9月（大会にて）

＊宣言文の草案が2022年7月頃には提出されるので、それに沿った審査（審査基準（2））がなされる。

2）JCE７のプロジェクトの進捗管理について

プロジェクトの進捗管理は、宣教フォーラム部門が行う。

（1）各プロジェクトの報告は、宣教フォーラムにて実施される。

（2）各プロジェクトの期限は、最長3年となっているので、プロジェクト終了後、継続が必要場合、新たに申請ができ、最長6年とする。JCE8までの1年間は、発表準備期間とする。

（3）採択基準は、初回と同様とする。

3）プロジェクト推進コンサルティング

　プロジェクトを宣言文の内容に沿った進捗、およびタイムスケジュールの管理を行うために、宣教フォーラム部門もしくはこれに代わる委員会（仮称）が行う。その間の、コンサルテーションおよび、資金援助管理も実施する。

6．分科会との関係

　分科会では、より抽象的、啓発的な課題を取り上げる。つまり、短期では結論が出しにくいもので、専門委員会の協力を必要とするものとする。なお、分科会の場合は、登録料を徴収し、実施する。

7．JCE7で期待されているプロジェクト例（参考）

1）JEA総会でのディスカッションの中から出てきたテーマから

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 提案されたテーマ | 類 |
| 1 | 牧師家庭、クリスチャンホームが次の世代を育てていくことができない課題（健全な意味でクリスチャンの自然増加が起こらない課題） | プ |
| 2 | 一教会1牧師が難しい時代にあって「弟子とする」ことを具体的に考える | プ |
| 3 | 人権、環境、経済などを聖書に基づいてどう扱うべきかを考えたい | プ |
| 4 | デジタル化、グローバル化など、ポストコロナに加速するであろうテーマを取り上げて欲しい | プ |
| 5 | 日本で教会のない地域を共有し、誰がその地域の宣教を担うのかを確認したい | プ |
| 6 | 30-40代の、介護の問題、教会の高齢化に取り組むためのプログラム | プ |
| 7 | 香港、ミヤンマー、台湾など民主主義が蹂躙される状況に対する発言が必要ではないか（アジアの民主化と日本の教会） | 分 |
| 8 | 20-30代の信徒の育成、家庭形成、家庭における信仰継承に焦点を合わせた取り組み | 分 |
| 9 | 若者の集会、婚活大会 | 分 |
| 10 | LGBTQを扱って欲しい | 分 |
| 11 | 男女均等問題、女性リーダー、女性教職諭を扱って欲しい | 分 |
| 12 | 普段自分たちが立ち入らないが、救いを必要としているフィールドを明らかにする | 分 |
| 13 | 普段から牧師が仲良く一緒に活動するのが難しい現実に対応する | 分 |
| 14 | 沖縄、アイヌの痛みへ寄り添うことへの振り返り | 分 |

2)総会では出されなかったものの宣言文から必要と予測されているプロジェクト

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | テーマ | 類 |
| 1 | 在外外国人、海外日本人宣教 | プ |
| 2 | 神学校間協力 | プ |
| 3 | 地域における宣教 | プ |
| 4 | これからの伝道会議、およびJEAの在り方 | プ |
| 5 | 災害対応ネットワーク | プ |
| 6 | 日本的性質を内包する教会からの脱却 | プ |
| 7 | 異端問題 | 分 |

8．長良川国際会議場とプロジェクト＆分科会

　以下の会場で、JCE7プロジェクトの開始発表を実施する。

1）長良川国際会議場を使うもの

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 階 | 部屋名 | 席数 | 使用用途 |
| 1 | 5F | 国際会議場 | 80 |  |
| 2 | 4F | 大会議室（1/3) | 121 |  |
| 3 | 大会議室（1/3） | 121 |  |
| 4 | 大会議室（1/3） | 121 |  |
| 5 | 3F | 第1会議室 | 24 |  |
| 6 | 第2会議室 | 42 |  |
| 7 | 第3会議室 | 42 |  |
| 8 | 第4会議室 | 24 |  |
| 9 | 2F | 第５会議室 | 54 |  |
| 10 | 特別会議室 | 12 | オンライン制御室 |
| 11 | 1F | メインホール | 1929 |  |
| 12 | 練習室 |  | リハーサル室 |
| 13 | 市民ギャラリー |  | ブース |

2）長良川国際会議場以外を使うもの

（1）近隣教会

（2）近隣ホテル貸室

（3）オンライン仮想会議室

以上